

感染防ぐ窓開け運動

新型コロナ対策 SNSで呼び掛け

新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない中、神戸大学付属病院教授の伊藤智雄さん(53)が「窓を開ける運動」(#Madoka)を始めた。

オリジナルポスターを会員制交流サイト(SNS)にアップし、「開けられる窓は開けよう」と手洗い同様の習慣づけを呼び掛けている。

新型コロナウイルスは、せきやくしやみでウイルスが口に入る飛沫感染、せきなどで飛び散ったウイルスが手などを介して体内に入る接触感染があり、空気感染は報告されていない。

集団感染が起きたライブハウスなど、換気が悪い閉鎖空間では、飛沫が短時間空気中を漂うことがある。政府の専門家は、①人混み②密閉空間③近距離での会話や発声の3条件が重なる場所を避けるよう呼び掛けている。

換気により、飛沫は屋外へ流れウイルスは不活化する。

タクシー、会議室などで習慣づけを

神大・伊藤教授 「風でウイルスを外へ」



「オリジナルポスターが広がって、アマビエのようなトレンドになれば」と話す神戸大付属病院教授の伊藤智雄さん(神戸市中央区)

仮に空气中を漂っていたとしても、その濃度を下げる分だけ感染リスクは低減する。空気の流れをつくることが重要で、伊藤さんによると、タクシーの場合、運転手も乗客も座っている席の窓を数枚開ければ、お互いの呼吸はほとんど交わらないという。

伊藤さんの長女が作ったポスターは明るいタッチで「風を感じよう」「自分の心も開放的にするために」などのメッセージも添えた。「その風

を感じる程度で十分。場所によって難しいかもしれないが、閉鎖空間になりがちな会議室やタクシーなどでは工夫してほしい」と話している。(竹内 章)

ポスターは伊藤さんのツイッターアカウント (@TomooIto) に記載されたURL (http://immuno2.med.kobe-u.ac.jp/wp-content/uploads/2020/03/OpenTheWindVere2_J.jpg) からダウンロードできる。

窓を開けよう。



風を感じよう。

大切な人を守るため、
コロナをこれ以上広げないため、
春の香りをりと楽しむため、
そして、自分の心も開放的にするため、
窓を開けよう。
まずは小さなことから。

34 サーティーフォー® グループでは

新型コロナウイルス集団発生予防の為、

窓を開け、**換気**を行っております。

また、共同で使う物品には**消毒**を行う等

徹底しておりますのでご安心してお過ごしください。